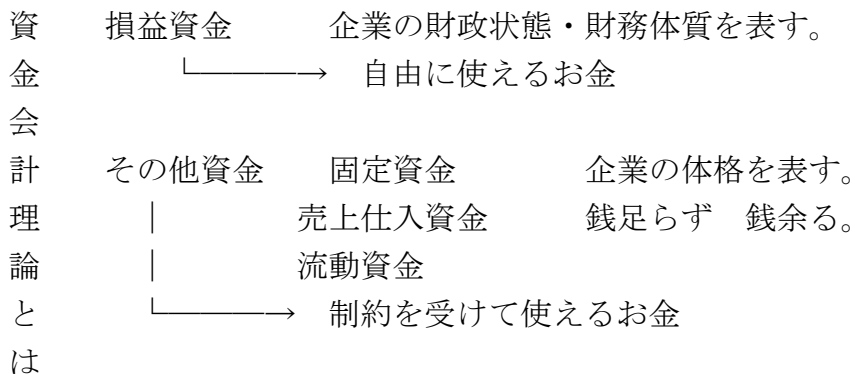


# 資金会計理論の基本

制度会計と資金会計理論

1. 制度会計 (税務会計) 納税の基となる数値を算出するための会計
2. 資金会計理論 継続企業を前提として、企業を発展させるための会計
3. 当期利益 会計処理によっていくらでも変えることができる。又、作成する人によっても変わるもので、不変の数値で有りません。

## 4つの資金



## 経営はお金の流れ

- ⇒ 企業の財政状態、お金の流れをいかに良くするか。
- ⇒ 4つの資金のバランスをいかに良くするか。

## 企業の健康診断

人は血液 = 企業は現金

## 資金の循環の状態

- どの資金で資金を調達しているか？
- どの資金で資金を運用しているか？

4. 仕 訳 資金の移動を示すもの
5. 科 目 すべての現金の残高 その属性を表す  
企業内にある内部現金  
企業外にある外部現金
6. 取 引 商取引に限定し、すべて現金取引とみなす
7. 利 益 利益とは自由に使える現金
8. 財政状態 現金の廻り具合  
資金バランスが重要
9. どの資金で調達し、どの資金で運用しているのか？

財務状態とは人間の健康状態であり、財務体質とは身体体質である。人間の健康状態、身体体質を判断する場合は健康状態、身体体質を検査した時点で判断する。企業の財務状態、財務体質を判断する場合も当然、その時点の  
はずです。

「勘定合って、銭足らず」とは、損益資金がプラスで売上仕入資金がマイナスの資金状態

「勘定合わず、銭足らず」とは、損益資金も売上仕入資金もマイナスの資金状態

「勘定合って、銭余る」とは、損益資金がプラスで売上仕入資金もプラスの資金状態

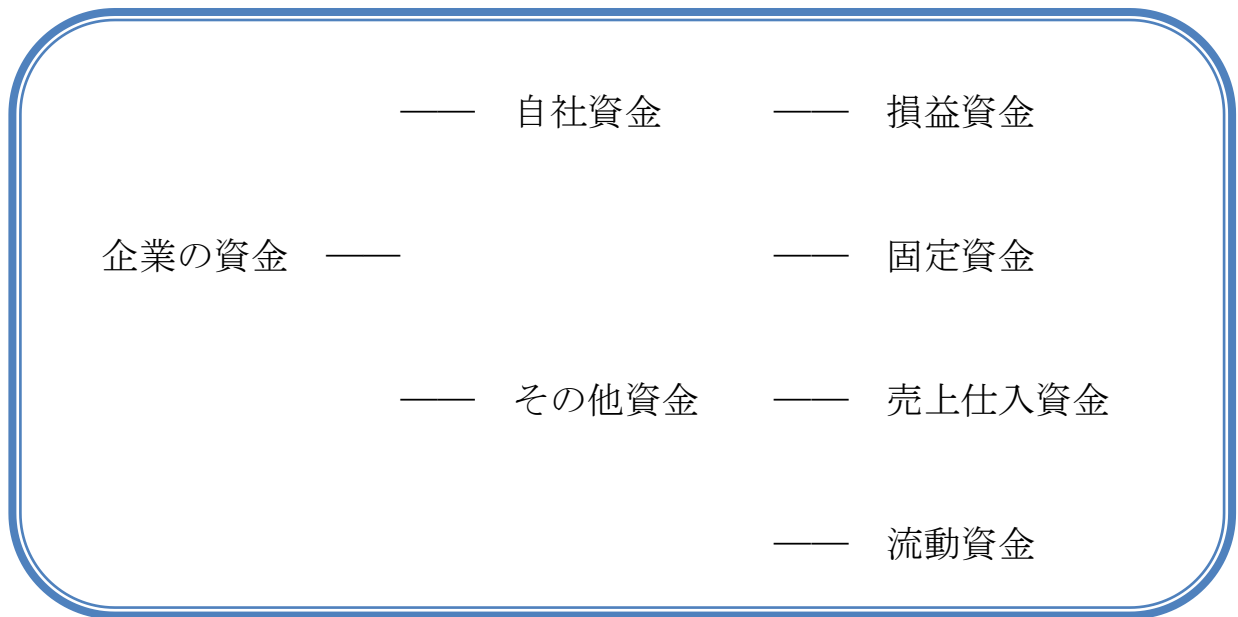
「勘定合わず、銭足らず」とは、損益資金も売上仕入資金もマイナスの資金状態

「勘定合って、銭余る」の財務体質の企業は事業規模（売上規模）拡大とともに売上仕入資金が必ず余ってくる。企業の事業規模の拡大（売上規模拡大）が進んでいる間は資金不足の状態にならず倒れないが、事業規模拡大（売上規模拡大）がストップした場合、資金不足になり倒れる、という特徴の財務状態・財務体質をもった企業をいいます。

特に小売業に多い財務体質です。

自転車操業とは、売上仕入資金がプラスで、他の3資金がすべてマイナスの企業の財務状態・財務体質を指している。自転車操業の企業は、売上仕入資金によってプラスの財務が構成されている財務状態です。

## 損益資金・固定資金・売上仕入資金・流動資金



### ①□ 損益資金

内部留保を含め、損益を集約した資金です。この資金だけが自分で稼いだお金であり本来、会社の中に残るべき性格のもので、会社の目的はこの資金を最大にすることです。

### ②固定資金

資本金や長期借入金を使って、設備投資し、商品在庫を持つなど、企業規模を拡大するサイクルの原動力となる資金です。固定資金の上手な運用、適切な調達はいい結果を次々と生み出します。一方、過剰投資や資金不足で会社が危ない状況に陥るのも、固定資金のつまずきが元となる場合があります。最も注意すべき資金です。

### ③売上仕入資金

売上代金の回収と仕入代金の支払いとの差額により発生した資金で、サイトの勝ち負けと滞留がポイントとなります。「勘定合って銭足らず」とは、「損益資金」がプラスで、「売上仕入資金」がマイナスの資金状態をあらわしたものです。

### ④流動資金

上記3区分以外の、短期的な資金の調達と運用の差額から発生した資金であり、全体資金の短期的調整（つじつま合わせ）の性格を持っている。「流動資金」の原資は短期借入金を中心となっているから、この資金不足はたちまち倒産を招くこととなります。

企業経営上の資金の動き、すなわちキャッシュフローをあらわす具体的な方法として、資金会計理論では、「資金別貸借対照表」を作成します。

**※作成に関する注意：必ず鉛筆・電卓を使い自分で計算すること、表計算ソフト等ではない、手と頭を使う事で理解が深まります。**

この資金会計理論は、企業の経営成績及び財務状態の後付理論ではなく、将来の経営判断の目安となるものです。例えば、新規事業を立ち上げようとするとき、その新規の事業の予定される数値のみで、資金別貸借対照表を作成することにより、どの資金が+又は△になり、いつどのくらいの資金が不足するか、この一枚の資金別貸借対照表により明らかになります。